

2013年3月21日

ダイビル株式会社

(コード番号 8806 東証・大証第1部)

**「ダイビル本館」竣工のお知らせ**

～「中之島 四季の丘」を創出～

当社が大阪市北区中之島にて建設しておりました「ダイビル本館」が本年2月28日に完成し、本日竣工式を執り行いましたので、お知らせいたします。

当ビルは、当社が関西電力株式会社・関電不動産株式会社とともに進めてまいりました中之島3丁目共同開発の第3期工事として、第1期の「関電ビルディング」(2004年竣工)、第2期の「中之島ダイビル」(2009年竣工)に続き完成したものであり、低層部において1925年(大正14年)竣工の「旧ダイビル本館」の外観を復元するなど、往年の名建築を次代に継承する建物として開発を行ってまいりました。

敷地西側には建物の竣工に併せ、関電不動産株式会社と共同で緑地を整備し、四季折々の自然を感じられる憩いの空間として、この緑地の名称を「中之島 四季の丘」と決定いたしました。

「ダイビル本館」及び「中之島 四季の丘」の完成により、水都大阪の中心であり当社発祥の地でもある中之島が更に発展し、活性化するものと確信する次第です。

オフィスゾーンには株式会社大林組大阪本店様などの入居が決定しており、5月連休明けには本格稼働の予定です。また、商業ゾーンは7月のグランドオープンを予定しております。

**【ダイビル本館の特色】**

(外装・内装)

- ・低層部の外観は、煉瓦と石彫刻が特徴的な「旧ダイビル本館」竣工当時の意匠を復元しています。煉瓦は旧ビル解体時に約18万個を手作業で取り外し、当ビルの外装材として北面・西面の95%以上に再利用しました。また、中央玄関上の大国貞蔵作「鷲と少女の像」を始めとした石彫刻の多くも旧ビル解体時に一点一点取り外したものを再利用しています。
- ・一方、高層部は軽快なデザインで低層部を引き立たせ、建物全体としてのバランスをとるとともに、「関電ビルディング」「中之島ダイビル」との街区全体の調和も図っています。
- ・建物内部では、旧ビルエントランスホールのデザインを取り込み、床タイルを再利用することで、イメージの再現を図ります。また、4階のカフェテリアは、旧ビルの内装・外装材として使われていた煉瓦を壁面に貼り付けるほか、床材の一部には旧ビルで使われていた2種類のタイルを再利用しています。

#### (フロア構成)

- ・1・2階には街に賑わいを生み出す約400坪の商業ゾーンを設け、4階には、入居者の利便性向上に寄与するカフェテリア及び貸会議室を設置しています。4階の一部から2階がオフィスゾーンとなっています。
- ・高層部のオフィスはワンフロア有効面積約400坪、天井高2.8mという開放的な無柱空間とし、自由度が高くレイアウト効率に優れた空間を実現しています。
- ・また、「ダイビル本館」は地下2階で「中之島ダイビル」と接続し、京阪中之島線渡辺橋駅と地下で直結しており、周辺地域から京阪中之島線へのアクセス向上にも貢献します。

#### (BCP 対応)

- ・建物の構造には地震時の揺れを低減するオイルダンパーを配置した制振構造を採用し、高い耐震性能を確保しています。
- ・停電時への対応として、30時間の連続運転可能な非常用発電機を設置しています。停電時でも防災設備や非常用エレベーターが稼働し、テナント専用部においても15VA/m<sup>2</sup>の電源を供給できる仕様としており、入居者のBCPをサポートします。

#### (環境性能)

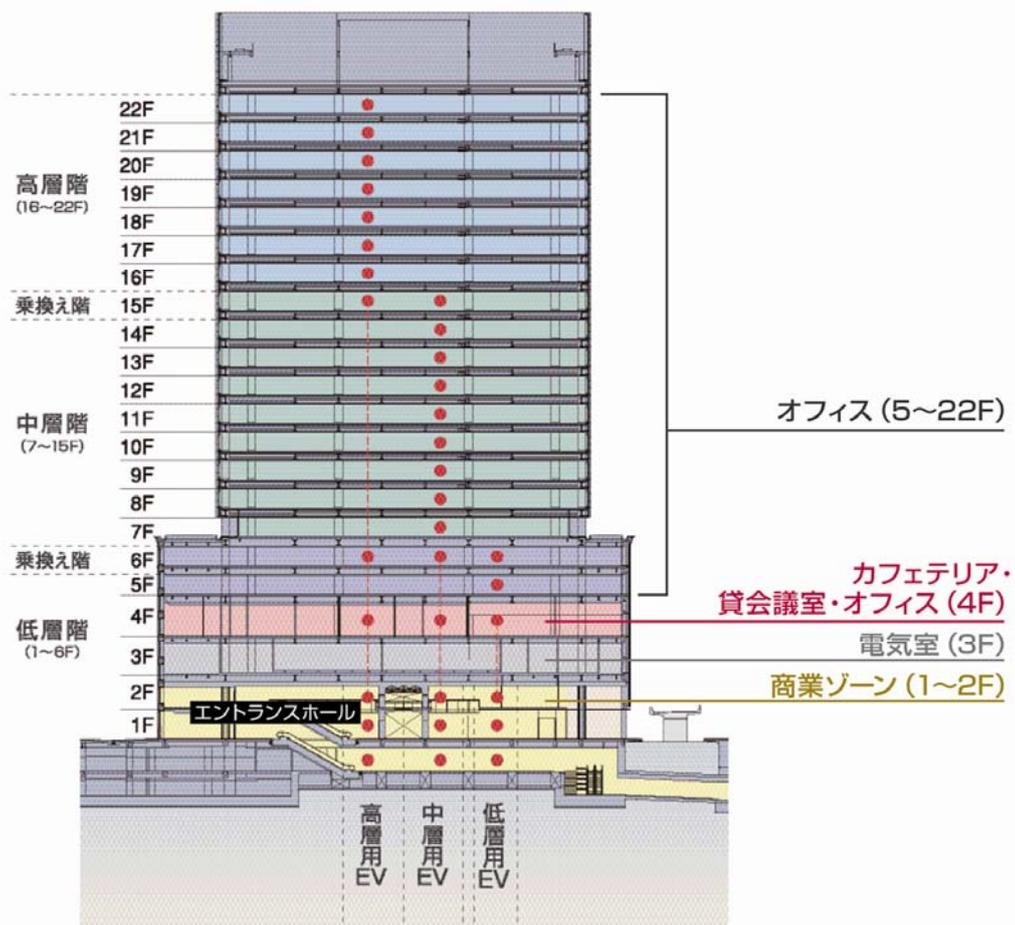
- ・中之島の南北を流れる堂島川・土佐堀川の河川水を有効活用した地域冷暖房システムを採用しており、通常の空調方式に比べCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減しています。このシステムは、大気中に廃熱しない空調方式であるため、ヒートアイランド対策にも貢献しています。
- ・ガラスは高遮熱のLow-e 複層ガラスを採用し、日射遮蔽ルーバーと合わせ開放的な眺望と省エネルギーの両立を図ります。また、西面にはエアフローウィンドウを採用しています。
- ・そのほか、効率的に外気を室内に取り入れる自然換気システムや、雨水を貯留し再利用する灌水設備の導入、低層部の屋上緑化など環境に配慮し、CASBEE 大阪（大阪市建築物総合環境評価制度）で最高ランクの「S」を取得しました。

#### 【「中之島 四季の丘」の特色】

- ・四季折々の自然を感じられるよう、「中之島 四季の丘」にはウメ・サクラ・ヤマボウシ・モミジなど多様な樹木や地被類を植えています。地盤を丘陵状とし、樹木の足元を地被類で覆うことで、緑地として一体感のある計画としました。
- ・また、丘には煉瓦敷きの遊歩道を設けており、頂上部まで散策することも可能です。丘の頂上部は、「ダイビル本館」「関電ビルディング」へ繋がるデッキ及び堂島川の遊歩道へ繋がる歩行者用ブリッジ（本年夏頃完成予定）に接続しており、将来は大阪市による近代美術館の整備が計画されている中之島4丁目とも歩行者用ブリッジで繋がる予定です。これにより、中之島地域の回遊性が増すとともに、歩車分離が図られ、歩行者の安全性の向上にも寄与します。

【建物概要】

名 称	ダイビル本館
所 在 地	大阪市北区中之島 3 丁目 6 番 32 号
用 途	事務所・店舗・駐車場
規 模	地上 22 階・地下 2 階・塔屋 2 階
構 造	鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造）
延床面積	48,198 m <sup>2</sup> （14,580 坪）
最高高さ	108m
設計監理	(株)日建設計
施 工	(株)大林組
竣 工	2013 年 2 月末



【外 観】



【中央 玄関】



【エントランスホール】



【中之島 四季の丘】



【地 図】



【位置図】



(お問合せ先) 取締役執行役員 建設企画本部長 矢田 豪男

TEL 06-6441-1934